

子どもが携帯電話を持つことの長所や短所、使い方について議論するパネリストたち＝21日、名護市民会館



喜屋武幸さん(羽地中学校教諭)は学校のアンケート結果から、毎月1万円の利用料が掛かると紹介し「経済的な面も含め、使い方を家族で話し合おうべきだ」と強調。さらに友人への返信が遅れると仲間外れになる「5分ルール」を挙げ「インターネットは世界につながるが、子どもの世界は逆に人間関係が狭く濃密。豊かな人間関係を築くために、使い方を指導するのが親と学校の役割だ」と語った。

渡久地政孝さん(名護市教委)は「学校では情

持ちたい!持たせる?

名護PTA連 子どもと大人議論

情報教育充実を提言

【名護】シンポジウム「親子で語ろう・学ぼう携帯電話(名護市PTA連合会、名護市教委主催)」が21日、名護市民会館で開かれた。中学生、保護者、学校、教委の代表5人が登壇し、子どもが「携帯」を持つことの是非や使い方について意見を述べた。中学生代表は「夜10時以降は触らないなど家庭での約束を守るので「持たせて」とアピール。保護者や学校の代表も家族の話し合いが前提とした上で、利便性と危険性を子どもに詳しく伝える情報教育がより重要になると指摘した。

「携帯」家族ルールを

報モラルの指導が新たに加わる。家庭でも持たせて終わりでなく使い方を話し合ってほしい」と保護者に求めた。

中学生代表の比嘉樂君(名護中2年)、比嘉緋南さん(屋部中3年)は共に携帯を持っていないが、「部活動の帰りに連絡するなど必要」として、時間や利用頻度などそれぞれが考えるルールを挙げた。保護者代表の大嶺京子さん(大宮中PTA)は「子どもは約束しても忘れてしまう。『誓約書』など形に残すことも必要」と話した。

(2011年8月25日付 22面)

☆記事を読んで友達と感想を話し合みましょう。

☆家族の考えを聞いてみましょう。

年 組 名前